

2025年3月31日

各位

株式会社北洋銀行

株式会社ぬくもりの宿ふる川様と 「ポジティブインパクトファイナンス」の契約を締結しました

北洋銀行(取締役頭取 津山 博恒)は、株式会社ぬくもりの宿ふる川様(北海道札幌市、代表取締役:古川 善浩様)と「ポジティブインパクトファイナンス」(以下、本ファイナンス)の契約を締結しました。

本ファイナンスは、企業活動が環境・社会・経済にもたらすインパクトを包括的に分析・評価し、ネガティブインパクトの緩和とポジティブインパクトの拡大について目標を設定し、その実現に向けた継続的な対話や支援を重視することで SDGs 達成に貢献していく金融手法です。当行は、国連環境計画金融イニシアチブが提唱するポジティブインパクト金融原則に基づき、「ポジティブインパクトファイナンス評価書」を発行し、株式会社格付投資情報センター様から第三者評価として「セカンドオピニオン」を取得しています。

本件では、コア・インパクトを「サービス品質の向上と定山溪文化の継承」と特定し、事業を通じて定山溪温泉の文化継承や、顧客満足度の向上に取り組むことで、持続可能な社会に向けたインパクト拡大を目指している点などを評価させていただいています。

当行は、今後もほくようサステナブルファイナンス等を通じて環境・社会課題の解決を図るお客さまやプロジェクトを積極的に支援し、脱炭素社会の実現や SDGs の達成に貢献してまいります。

※「ポジティブインパクトファイナンス評価書」および「セカンドオピニオン」は別紙をご参照ください。

記

【株式会社ぬくもりの宿ふる川様の概要】

本社所在地	北海道札幌市南区定山溪温泉西4丁目353番地
代表者	古川 善浩 様
設立	1969年8月
業種	宿泊業

【本ファイナンスの概要】

実行日	2025年3月31日
金額	1億円
期間	10年
資金用途	運転資金

【契約記念の様子】



左:株式会社ぬくもりの宿ふる川
代表取締役 古川 善浩 様

右:北洋銀行
札幌南支店長 本間 剛

以上



北洋銀行グループは、2018年12月「北洋 SDGs 宣言」を表明し、地域の持続的成長支援と社会的課題の解決に取り組んでおります。なお、SDGs に関連するプレスリリースには、該当する SDGs のアイコンを明示しております。

【SDGs】2015年の国連サミットで採択された、持続可能な世界を実現するための2030年までの国際目標。17のゴールと169のターゲットで構成される。

株式会社ぬくもりの宿ふる川
ポジティブインパクトファイナンス評価書

発行日：2025年3月31日



北洋銀行ならびに株式会社北海道共創パートナーズは、株式会社ぬくもりの宿ふる川（以下、「ぬくもりの宿ふる川」または「当社」）に対してポジティブインパクトファイナンス（以下、「PIF」）を実施するにあたって、当社の事業活動が環境・社会・経済に及ぼすインパクト（ポジティブインパクト/ネガティブインパクト）を分析・評価した。

この分析・評価は、国連環境計画金融イニシアチブ（UNEP FI）が提唱した PIF 原則および PIF 実施ガイド（モデル・フレームワーク）、ESG 金融ハイレベル・パネルにおいてポジティブインパクトファイナンスタスクフォースがまとめた「インパクトファイナンスの基本的考え方」に則ったうえで、北洋銀行が独自に開発した評価体系に基づいている。

目次

1. 企業概要.....	4
(1) 基本情報.....	4
(2) 経営理念.....	6
(3) 事業概要.....	7
(4) サステナビリティ方針と活動.....	12
2. インパクトの特定.....	16
(1) バリューチェーン分析.....	14
(2) インパクトレーダーによるマッピング.....	16
(3) インパクトニーズの確認.....	18
(4) 北洋銀行グループが認識する社会課題との整合性.....	25
3. インパクトの評価.....	26
4. インパクトのモニタリング.....	28
5. 情報開示.....	28

1. 企業概要

(1) 基本情報

名 称	株式会社ぬくもりの宿ふる川	
所 在 地	〒061-2303 北海道札幌市南区定山溪温泉西4丁目353番地	
代 表 者	代表取締役 古川 善浩	
設 立 日	1969年8月	
資 本 金	43百万円	
売 上 高	1,115百万円(2024年4月期)	
従 業 員	95名(2024年4月現在)	
グループ会社	株式会社 運河の宿ふる川 「運河の宿 おたる ふる川」 運営 株式会社 海の別邸ふるかわ 「心のリゾート 海の別邸 ふる川」 運営	
事 業 内 容	① 温泉旅館「定山溪温泉 ぬくもりの宿ふる川」の運営 ② 自家製アップルパイ専門店「J・glacee(ジェイ・グラッセ)」の運営 ③ 「心の里 埜のてらす」の運営	
沿 革	1969年9月	株式会社 白雲閣(現:ぬくもりの宿ふる川) 開業 創業者:古川 善雄氏
	1976年3月	株式会社 定山溪パークホテルに商号変更
	1988年1月	小樽市にて小樽カナルJBイン(現:おたる ふる川)を開業
	2009年4月	「おたる ふる川」で大浴場を新設
	2010年8月	白老町にて「海の別邸 ふる川」を開業
	2013年6月	札幌市ライラック荘跡地を取得、「心の里 定山」を開園
	2013年7月	現社名に商号変更 「おたる ふる川」「海の別邸 ふる川」を分社化
	2018年5月	古川 善浩氏が代表取締役に就任(現任)
	2018年12月	新温泉施設オープン
	2022年7月	「心の里 埜のてらす」をオープン

(2) 経営理念

ぬくもりの宿ふる川は、以下の経営理念・経営ビジョンを定めている。

経営理念は、お客様の喜びと高い満足を追求することが、社業および従業員の幸せとなり、地域経済の繁栄に寄与するとの信念に基づき定められている。

当社は創業以来、「和顔愛語」という言葉を大切にしている。「和顔」はやわらかな顔、「愛語」はやさしい言葉という意味である。北海道の風光明媚な景観と歴史ある温泉地「定山溪」を訪れる人々を、「和顔愛語」の精神で迎え、日本一の心あたたまるおもてなしを尽くす温泉宿を目指している。

経営理念
お泊り頂いたお客さまに喜びと満足をもって笑顔でお帰り頂こう ～お客さまの喜びと満足の実現という顧客第一主義に徹底する～

経営ビジョン
私たちは日本一あたたかい宿を目指します ～心あたたかいもてなしと、手作り出来立てのお料理で、日本一心あたたまる宿を目指す～

(3) 事業概要

A. 事業内容

ぬくもりの宿ふる川は、定山溪にて宿泊施設「定山溪温泉 ぬくもりの宿 ふる川」を中核に、道産商材を活用した自家製アップルパイを販売する「J・glacee (ジェイ・グラッセ)」、定山溪の魅力を発信する複合施設、心の里「埜のてらす」を運営している。

① 温泉旅館「定山溪温泉 ぬくもりの宿ふる川」

「定山溪温泉 ぬくもりの宿ふる川」は「懐かしい和のしつらえと、気取りのないおもてなし」をコンセプトとした全客室 55 室で訪れる人々を受け入れている。「ぬくもり和室」「ぬくもり和洋室」を代表的な客室として、温泉宿での「贅沢」なひとときを過ごす特別フロア「月星」、さらに愛犬同伴客室を完備している。

温泉は「美」と「健康」と「若返り」をテーマに、定山溪の「地」と「天」をイメージした野趣溢れる 3 つの大浴場や、源泉から湯気を引き入れる温泉蒸し風呂など、自然を感じる空間と心が落ち着く和みの湯殿を提供している。

食事は、地元の食材をふんだんに活用した四季折々の創作和食膳を「手づくり」と「出来立て」にこだわり、お客様のシーンに合わせた食空間の演出にも心掛けている。

また、1866 年の開湯から紡がれた定山溪温泉の歴史と魅力を発信するために、定山溪独自のホスピタリティ向上を目指す「定山溪検定」の取得などに取り組み、お客様の満足度の向上に努めている。

■ 外観・館内



■ 客室



■ 温泉



■ 食事



【出所：ぬくもりの宿ふる川 提供資料】

② 自家製アップルパイ「J・glacee (ジェイ・グラッセ)」

「J・glacee (ジェイ・グラッセ)」は、「定山溪温泉 めくもりの宿ふる川」に隣接するスイーツショップである。定山溪や八剣山（札幌市南区）の果樹園、余市町など北海道各地の契約農家が生産したりんごや季節のフルーツをアップルパイやグラッセに加工して販売を行っている。

ゆっくりと過ごせるようなイートインスペースを設け、商品名の英語表記や QR コード決済システムを導入するなど、国内外を問わず訪れた人々に快適な店舗空間を提供している。

■外観・店内



■デザート・料理



【出所：めくもりの宿ふる川 提供資料】

③ 心の里 「埜のてらす」

体験ツアーデスク「フリルフスリフ」、屋外テラス&ドッグラン、レストラン、マルシェ、スイーツショップが集まる心の里 「埜のてらす」では、定山溪を訪れる人々に“定山溪時間をもっと面白く、もっと美味しくする”様々なサービスを提供している。

■ 外観

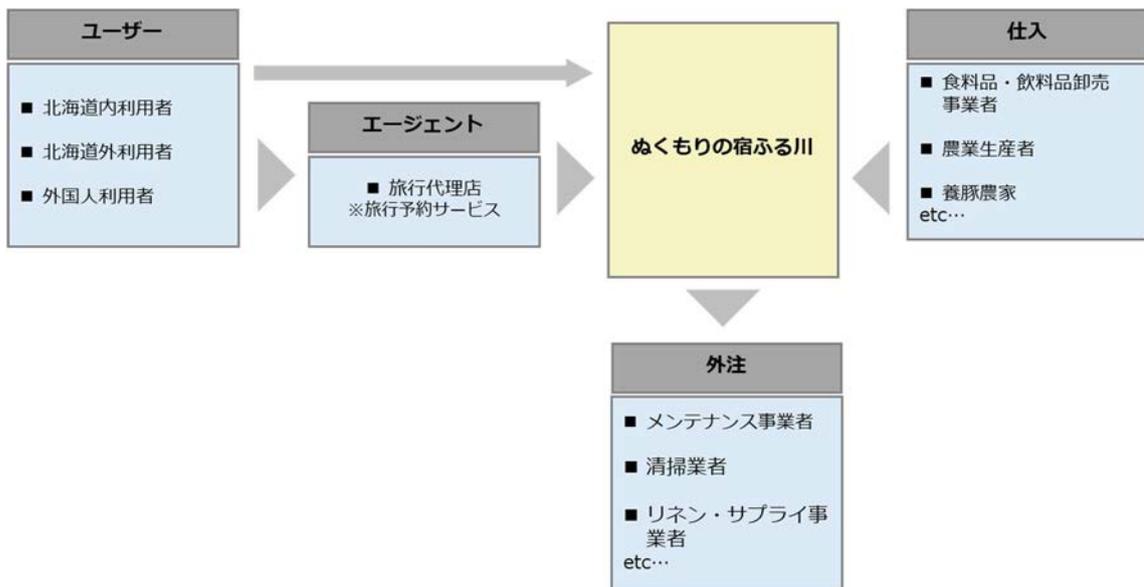


【出所：ぬくもりの宿ふる川 提供資料】

B. ビジネスモデル

ぬくもりの宿ふる川のビジネス俯瞰図とバリューチェーンは以下の通り。

■ ビジネス俯瞰図



【出所：ぬくもりの宿ふる川へのヒアリングにより HKP 作成】

■バリューチェーン



※中核事業である温泉旅館の運営におけるバリューチェーン

【出所：ぬくもりの宿ふる川へのヒアリングにより HKP 作成】

(4) サステナビリティ経営方針と活動

A. サステナビリティ経営方針

ぬくもりの宿ふる川は、「経営理念」と「経営ビジョン」に基づく企業活動を通じて、全てのステークホルダーと地域社会・環境の持続的発展に貢献するとともに、中長期的な企業価値の向上と持続的経営の実現を図るべく「サステナビリティ経営方針」を策定した。脱炭素社会の実現に向けた環境問題、人口減少・少子高齢化等の社会課題、企業の社会的責任に対する重要性の高まり等を踏まえ、①「お客様の喜びと満足に裏付けられた『ぬくもり温泉リゾート』の提供」②「皆が幸せになる為に資源を大切に使う」③「地域と連携し社会に元気を提供する」④「安心と働きがいのある職場環境づくり」⑤「地域や社会から信頼されるふる川を目指す」の5つを重要課題とし、それに紐づく取り組み内容に目標・KPIを定め、サステナビリティ経営の実現に向けた取り組みを推進している。



株式会社 ぬくもりの宿ふる川

サステナビリティ経営方針

私たちは「二つの幸福」の実現を目標に、手間を惜しまず、日々の小さな改善を大切に、日本一あたたかい宿を実践して「社会に元気を提供する」ことを使命とします。

経営理念
お泊り頂いたお客さまに喜びと満足をもって笑顔でお帰り頂く
～お客さまの喜びと満足の実現という顧客第一主義に徹底する～

経営ビジョン
私たちは日本一あたたかい宿を目指します
～心あたかもいもてなしと、手作り出来立てのお料理で、日本一心あたまる宿を目指す～

事業に影響を与える環境変化	事業課題（マテリアリティ）	取組内容	主なステークホルダー
<p>環境</p> <ul style="list-style-type: none"> 脱炭素に向けた社会変化 自然災害の激甚化 自然保護への規制強化 循環経済の加速 	<p>1 お客様の喜びと満足に裏付けられた「ぬくもり温泉リゾート」の提供</p> <p>2 皆が幸せになる為に資源を大切に使う</p> <p>3 地域と連携し社会に元気を提供する</p> <p>4 安心と働きがいのある職場環境づくり</p> <p>5 地域や社会から信頼されるふる川を目指す</p>	<p>① 心あたかもいもてなしを提供できる様に知識と経験・技術の向上</p> <p>② 自ら魅力を発信し自立した集客を目指すお客様とスタッフが幸せになるDX化を目指す</p> <p>③ 環境にやさしい商品を使用する</p> <p>④ フードロスと廃棄物を削減する</p> <p>⑤ エネルギーの使用量とCO2排出量を削減する</p> <p>⑥ 定山頂の美しい町づくりに連携・協力する</p> <p>⑦ 地元の歴史と文化を学びその魅力をお客様の喜びに変える</p> <p>⑧ より良く働き、付加価値の高い仕事をすることで生活を豊かにする</p> <p>⑨ 自ら考えて改善できるふる川の将来を担う自立型人材の育成</p> <p>⑩ 多様なふる川の仲間を増やす</p> <p>⑪ 2つの幸せを実現する為に健康経営を推進する</p> <p>⑫ “ルールを守る”“礼儀正しい”ふる川となる為に人格形成に努める</p> <p>⑬ 創業100年まで既存建物を快適に利用できる施設を目指す</p>	<p>お客様 従業員</p> <p>地球環境 地域社会 行政・お客様</p> <p>地域社会 行政</p> <p>従業員</p> <p>お取引先 従業員 お客様</p>

サステナビリティ経営への取り組み

当社は国連が提唱する「持続可能な開発目標（SDGs）」に賛同し、持続可能な社会の実現に向けた積極的な取り組みを行っています。

また、環境問題、労働問題や人権問題など企業を取り巻く社会課題のうち、当社が将来にわたって事業活動を継続するために重要な課題をマテリアリティと定め、重点テーマを設定しております。

重点テーマの取り組みを通じて、経営のリスクを回避し、イノベーション創出の機会を捉えてまいります。

2024年11月 | 株式会社ぬくもりの宿ふる川

SDGs達成とマテリアリティへの取り組み

環境	経済・ガバナンス																		
<p>私たちは皆が幸せになるために、「資源を大切に使う」地域と環境にやさしい「ぬくもりリゾート」を目指します。</p> <p>【SDGs達成に向けた具体的な取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> 食品廃棄の有効活用 調理過程における廃棄物の再利用 ペーパーレス化の推進 エネルギー使用量の把握と削減対策 	<p>私たちは“ルールを守る”“礼儀正しい”「ぬくもりリゾート」を実現して、お客様や地域・社会から「信頼される企業」として人格の形成に努めます。</p> <p>【SDGs達成に向けた具体的な取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> 取組管理の徹底 感染症対策の実施 お客様のご意見・ご要望への対応 防災設備の整備 老朽化施設の維持管理徹底 																		
<p>【マテリアリティに基づく取組内容とKPI】</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>重要課題</th> <th>取組内容</th> <th>目標・KPI</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">皆が幸せになる為に資源を大切に使う</td> <td>環境にやさしい商品を使用する</td> <td>■ 2030年度までにお客様用アメニティを完全プラスチックとします</td> </tr> <tr> <td>フードロスと廃棄物を削減する</td> <td>■ 2030年度までに食材の「副材料用・二次利用」を進め、食材廃棄を90%削減する</td> </tr> <tr> <td>エネルギーの使用量とCO2排出量を削減する</td> <td>■ 2025年度までにCO2排出量の把握と削減目標を設定する ■ 2026年度までに「住人ルール」の「照明消灯」を促進し、宿泊者食材廃棄率を80%以上削減すること。 ■ 2030年度までに再資源の二次利用を開始する ■ 2030年度までに再資源に向けた取り組みを10件実施する</td> </tr> </tbody> </table>	重要課題	取組内容	目標・KPI	皆が幸せになる為に資源を大切に使う	環境にやさしい商品を使用する	■ 2030年度までにお客様用アメニティを完全プラスチックとします	フードロスと廃棄物を削減する	■ 2030年度までに食材の「副材料用・二次利用」を進め、食材廃棄を90%削減する	エネルギーの使用量とCO2排出量を削減する	■ 2025年度までにCO2排出量の把握と削減目標を設定する ■ 2026年度までに「住人ルール」の「照明消灯」を促進し、宿泊者食材廃棄率を80%以上削減すること。 ■ 2030年度までに再資源の二次利用を開始する ■ 2030年度までに再資源に向けた取り組みを10件実施する	<p>【マテリアリティに基づく取組内容とKPI】</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>重要課題</th> <th>取組内容</th> <th>目標・KPI</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">地域や社会から信頼されるふる川を目指す</td> <td>定山頂の美しい町づくりに連携・協力する</td> <td>■ 毎年役員者に対して、外部講師によるコンプライアンス研修を行う ■ 2025年度までに視覚的確認を実施し、社内環境に向けた取り組みを行う ■ 2025年度までに「自殺防止」「定期検診」「定期検疫」事項の年間定山ツアーを実施する ■ 2025年度までに通信環境の改善と整備計画（サブスクリプション）を実施する</td> </tr> <tr> <td>創業100年まで既存建物を快適に利用できる施設を目指す</td> <td>■ 2025年度までに設備投資計画を策定し2030年度までに実施する ■ 2026年度までに設備投資計画を策定し、2030年度までに実施する</td> </tr> </tbody> </table>	重要課題	取組内容	目標・KPI	地域や社会から信頼されるふる川を目指す	定山頂の美しい町づくりに連携・協力する	■ 毎年役員者に対して、外部講師によるコンプライアンス研修を行う ■ 2025年度までに視覚的確認を実施し、社内環境に向けた取り組みを行う ■ 2025年度までに「自殺防止」「定期検診」「定期検疫」事項の年間定山ツアーを実施する ■ 2025年度までに通信環境の改善と整備計画（サブスクリプション）を実施する	創業100年まで既存建物を快適に利用できる施設を目指す	■ 2025年度までに設備投資計画を策定し2030年度までに実施する ■ 2026年度までに設備投資計画を策定し、2030年度までに実施する
重要課題	取組内容	目標・KPI																	
皆が幸せになる為に資源を大切に使う	環境にやさしい商品を使用する	■ 2030年度までにお客様用アメニティを完全プラスチックとします																	
	フードロスと廃棄物を削減する	■ 2030年度までに食材の「副材料用・二次利用」を進め、食材廃棄を90%削減する																	
	エネルギーの使用量とCO2排出量を削減する	■ 2025年度までにCO2排出量の把握と削減目標を設定する ■ 2026年度までに「住人ルール」の「照明消灯」を促進し、宿泊者食材廃棄率を80%以上削減すること。 ■ 2030年度までに再資源の二次利用を開始する ■ 2030年度までに再資源に向けた取り組みを10件実施する																	
重要課題	取組内容	目標・KPI																	
地域や社会から信頼されるふる川を目指す	定山頂の美しい町づくりに連携・協力する	■ 毎年役員者に対して、外部講師によるコンプライアンス研修を行う ■ 2025年度までに視覚的確認を実施し、社内環境に向けた取り組みを行う ■ 2025年度までに「自殺防止」「定期検診」「定期検疫」事項の年間定山ツアーを実施する ■ 2025年度までに通信環境の改善と整備計画（サブスクリプション）を実施する																	
	創業100年まで既存建物を快適に利用できる施設を目指す	■ 2025年度までに設備投資計画を策定し2030年度までに実施する ■ 2026年度までに設備投資計画を策定し、2030年度までに実施する																	
<p>社会・地域</p> <p>私たちは「お客様の幸福」を「従業員の幸福」へと繋ぎ、「ぬくもりリゾート」を実践して、地域や社会に元気を提供します。</p> <p>【SDGs達成に向けた具体的な取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> 多言語対応コンシェルジュ機能（AI）の設置 地元産材の積極利用 ネット同伴サービスの充実 アイヌ文化センター体験の実施 介護サービス（デイサービス）の提供 	<p>【マテリアリティに基づく取組内容とKPI】</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>重要課題</th> <th>取組内容</th> <th>目標・KPI</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">心あたかもいもてなしを提供出来る様に知識と経験・技術の向上</td> <td>定山頂の美しい町づくりに連携・協力する</td> <td>■ 2026年度までにホテル周辺の美しい景観を保護するための修繕計画（修繕計画を立案）を実施する ■ 1年に2回以上地域のご意見・活動に参加する ■ 1年に1回以上インターンシップの受け入れを行い、地元（札幌）人材を積極的に採用する</td> </tr> <tr> <td>地元の歴史と文化を学びその魅力をお客様の喜びに変える</td> <td>■ 2027年度までに全スタッフで定山頂決定を受験し、合格者90%以上とする</td> </tr> <tr> <td>より良く働き、付加価値の高い仕事をすることで生活を豊かにする</td> <td>■ 2027年度までに年次有休取得率を70%とする（2023年度60%） ■ 2027年度までに子育てサポート企業（くまみん認定）を取得する ■ 2030年度までに全スタッフのマルチタスク化を進め、生産性を高める ■ 2030年度までに清掃業務を内製化し、業務に安定した責任と負担を ■ 2030年度までに2024年度対比で常勤職・初任給を各1.3倍とする ■ 1年に2回おもてなしイベントを開催する</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">自ら魅力を発信し自立した集客を目指す</td> <td>自ら考え改善できるふる川の将来を担う自立型人材の育成</td> <td>■ 2026年度までにLINE来店5万人、SNSフォロワーを2万人とする ■ 2030年度までに直接予約比率を60%以上とする（現状45%）</td> </tr> <tr> <td>お客様とスタッフが幸せになるDX化を目指す</td> <td>■ 2026年度までにレストランの正装を廃止する ■ 2026年度までにオンラインシステムと経理情報システムを連携させる ■ 2027年度までに客室に内装を可能とする</td> </tr> </tbody> </table>	重要課題	取組内容	目標・KPI	心あたかもいもてなしを提供出来る様に知識と経験・技術の向上	定山頂の美しい町づくりに連携・協力する	■ 2026年度までにホテル周辺の美しい景観を保護するための修繕計画（修繕計画を立案）を実施する ■ 1年に2回以上地域のご意見・活動に参加する ■ 1年に1回以上インターンシップの受け入れを行い、地元（札幌）人材を積極的に採用する	地元の歴史と文化を学びその魅力をお客様の喜びに変える	■ 2027年度までに全スタッフで定山頂決定を受験し、合格者90%以上とする	より良く働き、付加価値の高い仕事をすることで生活を豊かにする	■ 2027年度までに年次有休取得率を70%とする（2023年度60%） ■ 2027年度までに子育てサポート企業（くまみん認定）を取得する ■ 2030年度までに全スタッフのマルチタスク化を進め、生産性を高める ■ 2030年度までに清掃業務を内製化し、業務に安定した責任と負担を ■ 2030年度までに2024年度対比で常勤職・初任給を各1.3倍とする ■ 1年に2回おもてなしイベントを開催する	自ら魅力を発信し自立した集客を目指す	自ら考え改善できるふる川の将来を担う自立型人材の育成	■ 2026年度までにLINE来店5万人、SNSフォロワーを2万人とする ■ 2030年度までに直接予約比率を60%以上とする（現状45%）	お客様とスタッフが幸せになるDX化を目指す	■ 2026年度までにレストランの正装を廃止する ■ 2026年度までにオンラインシステムと経理情報システムを連携させる ■ 2027年度までに客室に内装を可能とする			
重要課題	取組内容	目標・KPI																	
心あたかもいもてなしを提供出来る様に知識と経験・技術の向上	定山頂の美しい町づくりに連携・協力する	■ 2026年度までにホテル周辺の美しい景観を保護するための修繕計画（修繕計画を立案）を実施する ■ 1年に2回以上地域のご意見・活動に参加する ■ 1年に1回以上インターンシップの受け入れを行い、地元（札幌）人材を積極的に採用する																	
	地元の歴史と文化を学びその魅力をお客様の喜びに変える	■ 2027年度までに全スタッフで定山頂決定を受験し、合格者90%以上とする																	
	より良く働き、付加価値の高い仕事をすることで生活を豊かにする	■ 2027年度までに年次有休取得率を70%とする（2023年度60%） ■ 2027年度までに子育てサポート企業（くまみん認定）を取得する ■ 2030年度までに全スタッフのマルチタスク化を進め、生産性を高める ■ 2030年度までに清掃業務を内製化し、業務に安定した責任と負担を ■ 2030年度までに2024年度対比で常勤職・初任給を各1.3倍とする ■ 1年に2回おもてなしイベントを開催する																	
自ら魅力を発信し自立した集客を目指す	自ら考え改善できるふる川の将来を担う自立型人材の育成	■ 2026年度までにLINE来店5万人、SNSフォロワーを2万人とする ■ 2030年度までに直接予約比率を60%以上とする（現状45%）																	
	お客様とスタッフが幸せになるDX化を目指す	■ 2026年度までにレストランの正装を廃止する ■ 2026年度までにオンラインシステムと経理情報システムを連携させる ■ 2027年度までに客室に内装を可能とする																	

【出所：ぬくもりの宿ふる川提供資料】

B. サステナビリティ活動

(a) 環境面

● ペーパーレス化とプラスチックの削減

ぬくもりの宿ふる川では、これまでの郵送 DM から LINE を活用した情報発信への変更、予約内容のディスプレイ管理等によりペーパーレス化を実施している。今後は、チェックイン業務やレストランの注文受付時における IoT 化により、更なるペーパーレス化を進める方針にある。また、ホテルアメニティを紙製品へと切り替える脱プラスチック化を計画しており、事業活動を通じた環境負荷の低減に取り組んでいく。

● 気候変動に対する取り組み

ぬくもりの宿ふる川では、「地産地消」と「フードマイレージの考え方」に沿って、地元食材の積極活用による輸送距離の短縮化を進め、CO₂削減と資源保護に貢献している。

また、温泉熱を利用した床暖房とパネルヒーターの導入により、エネルギー消費の効率化を図り、CO₂排出量を抑制している。今後も、排湯熱による融雪、太陽光発電の導入などにより気候変動に対する取り組みを強化する方針にある。

(b) 社会面

● 安心して働ける環境づくり

ぬくもりの宿ふる川では、男子单身寮、女子单身寮、家族寮の3種類の寮を完備している。特に、女子单身寮は、完全なプライベート空間が確保されており、オートロック玄関とエアコン完備など安心して快適な居住空間を提供している。すべての寮でプライバシーは厳重に守られ、従業員が安心して暮らせる環境を整えている。

また、従前からの定期健康診断受診率100%の堅持に努め、ストレスチェックや産業医による面談の実施により、従業員の心身の健康を守る取り組みを強化する方針である。

■ぬくもりの宿ふる川 女子单身寮



【出所：ぬくもりの宿ふる川 提供資料】

● ワークライフバランスの充実

ぬくもりの宿ふる川では、労働時間の適正管理や有給休暇の取得推奨によりワークライフバランスの充実に取り組んでいる。今後は、ノーコードアプリによる業務の効率化とジョブローテーションによるコア人材の育成を通じて生産性の向上を図り、有給休暇取得率の向上を目指す方針にある。

また、仕事と家庭の両立支援を目的に、子育てサポート企業「くるみん認定」を取得予定にある。

● 人材育成と採用活動

ぬくもりの宿ふる川では、新入社員研修、OJT 研修、ハラスメント研修などの各種研修制度と資格取得費の補助制度により人材育成を進めている。これまで、定山溪検定、おもてなし検定、調理師資格、製菓衛生師資格などを対象に費用の一部または全部を会社負担としているが、今後は対象資格の拡充と評価制度の整備により、スキルアップと処遇改善に取り組んでいく。

採用活動では、インターンシップの積極的な受け入れにより地元人材の採用を強化していく方針にある。未経験者の働きやすさと定着を目指し、入社時初期教育プログラムの改定と社員寮の拡充を予定している。また、インバウンド対応として、多言語対応が可能なスタッフの採用・育成を進めていく。

● インクルーシブの推進

ぬくもりの宿ふる川では、愛犬と宿泊できる客室があり、心の里「埜のてらす」にはドッグラン施設がある。ペットの家族化の浸透からペットツーリズムの需要は増えており、インクルーシブな社会の形成に貢献している。

また、インバウンド観光の課題に対応すべく HP や各 OTA（Online Travel Agent）の多言語化を進めている。

■ぬくもりの宿ふる川 愛犬と宿泊できる客室



【出所：ぬくもりの宿ふる川 提供資料】

● 福祉活動による地域貢献

ぬくもりの宿ふる川では、温泉と食事にこだわったデイサービスにより、高齢者の健康維持と介護予防に取り組んでいる。要支援 1・2 の高齢者を対象とした「健康チェック、入浴・温泉における機能訓練、昼食」のプログラムは、地域の高齢者の社会的な孤立防止、健康寿命の延伸に貢献している。

■デイサービス一例



【出所：ぬくもりの宿ふる川 提供資料】

(c) 経済面/ガバナンス面

● 地域経済活性化への貢献

ぬくもりの宿ふる川は、定山溪観光協会を通じてイベントや街づくりに積極的に携わり、定山溪全体の活性化に寄与している。また、近隣の八剣山や道内契約農家の生産物、札幌市内で育った古川ポークなど地元食材の使用を進め、地域経済の持続可能な発展に貢献している。今後も、仕入れルートや料理内容を見直すことで地元食材の使用割合を高める方針である。

● ガバナンス体制の強化

ぬくもりの宿ふる川では、今年度より、従業員の規範意識向上を目的に外部専門講師によるコンプライアンス研修を開催している。

今後は、継続的にコンプライアンス研修を実施するほか、BCP（事業継続計画）の策定、セキュリティ強化を図る方針である。

2. インパクトの特定

(1) バリューチェーン分析

インパクトの特定のためバリューチェーン分析を行った。具体的な手法として、バリューチェーン(主活動・支援活動)における環境、社会、経済の側面から与える影響について、当社のサステナビリティ活動を切口に分析を行った。

■ バリューチェーンと ESG 要素

活動		環境、社会、経済に与える活動
主活動	企画 ビフォア サービス	<p>【環境/社会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● キャッシュレス化の促進 <p>【社会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 定山溪の歴史・文化の継承 ● 四季折々の館内设営やイベント行事の実施 ● SNS(LINE 等)、動画サイトにおける PR 強化 ● 北海道の作家による作品展ギャラリーの常設 ● 客室、食事等のブランディング強化
	販売	<p>【社会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 自社予約 HP ページ・各 OTA (Online Travel Agent) の品質向上 (多言語化・AI チャット機能・FAQ の充実等) <p>【社会/経済】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 年間を通した高い宿泊稼働率による定山溪地域への貢献 ● 直予約率の向上による利用者との関係強化 (今後の取り組み)
	レギュラー サービス	<p>【環境】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 食品ロス低減、食品残渣の有効活用 ● 調理過程における廃油の再利用 ● アメニティの完全脱プラスチック化 (今後の取り組み) <p>【環境/社会/経済】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地元食材の積極利用、地元農家との直接取引 <p>【社内】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ペット同伴のサービス充実 ● 館内案内における多言語モバイルガイドの導入 ● 多言語対応コンシェルジュの配置 (今後の取り組み) <p>【社会/経済】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 接客・施設・食事等のサービス品質向上の取り組み ● 清掃体制の強化・衛生管理の徹底
	エクストラ サービス	<p>【社会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 温泉×運動「温泉エクササイズ」による美と健康のサポート ● 介護サービス (デイサービス) の提供 ● アイヌ文化モニター体験の実施 ● 無料の送迎バスの運行による宿泊者の利便性向上 ● 健康的・リトリートを意識したプログラムの実施 (今後の取り組み)

	<p>アフター サービス</p>	<p>【環境/社会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● LINE 会員向け季節 DM、御年賀、バースデーメール等の対応（郵送による DM の廃止） <p>【社会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地場土産の充実・販売強化
<p>支援活動</p>	<p>全般管理 人事管理 労務管理 企画開発</p>	<p>【環境】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ペーパーレス化の推進 ● 温泉熱の利用によるエネルギー自給率の向上 ● 排湯熱の二次利用開始（今後の取り組み） <p>【社会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 定期健康診断受診率 100%の維持 ● 地元人材の積極採用・インターンシップの実施 ● 働き方改革の推進による労働管理体制の強化 ● 年次有給休暇の取得促進 ● 介護、育児休暇の取得促進 ● 資格手当の支給による資格取得の奨励 ● 人事評価制度・給与制度のブラッシュアップ（今後の取り組み） ● 子育てサポート企業「くるみん認定」の取得（今後の取り組み） <p>【社会/経済】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ボランティア等による地域貢献活動の促進 ● 地域との連携による地場の景観保護 <p>【経済】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● コンプライアンス研修の実施 ● 建物の耐震補強や防災設備の整備 ● サイバー攻撃に対する予防強化（今後の取り組み） ● 設備投資計画・修理更新計画の策定（今後の取り組み） ● ノーコードアプリの導入（今後の取り組み）

【出所：ぬくもりの宿ふる川のヒアリングにより HKP 作成】

(2) インパクトレーダーによるマッピング

バリューチェーン分析に基づき特定したインパクトを整理することに加え、UNEP FIが提供するインパクトレーダーによるマッピングを行う。

バリューチェーンにおける事業を国際標準産業分類にて、当社の事業および川上の事業を以下の通り特定した。なお、川下の事業は対象が個人であることから本分類による特定はしていない。

➤ 当社の事業

- 短期宿泊業(業種コード：5510)
- 専門店による食料品小売業（業種コード：4721)
- レストラン及び移動式飲食業（業種コード：5610)
- 食料品、飲料またはたばこが主な非専門店小売業（業種コード：4711)
- 他に分類されないその他の娯楽・レクリエーション活動（業種コード：9329)

➤ 川上の事業

- 食料品、飲料及びたばこ卸売業（業種コード：4630)
- その他の予約サービス業及び関連業務（業種コード：7990)
- 織物及び毛皮製品選択・(ドライ) クリーニング業（業種コード：9601)
- 建物一般清掃業（業種コード：8121)
- 梨果及び核果の栽培（業種コード：0124)
- ワイン製造業（業種コード：1102)
- 「豚の飼育（業種コード：0145)

マッピング手法は、UNEP FIのインパクトレーダーによるポジティブインパクト(PI)及びネガティブインパクト(NI)とバリューチェーン分析の結果により整理していく。

A. 当社の事業

- 心身ともにリラックスできる高品質なサービスの提供により「健康および安全性」のPI増大を特定した。
- 定山溪温泉に半世紀以上携わり、次世代に定山溪文化を継承する取り組みから「文化と伝統」のPI増大を特定した。
- 従業員の労働時間管理や有給休暇取得率の向上などから「健康および安全性」のNI低減を特定した。
- 新入社員研修、サービス品質の向上に向けた「おもてなし検定」の取得によるスキル形成、能力・成果に応じた給与体系の見直しから「雇用」「賃金」のPI増大とNI低減を特定した。
- 地産地消に心掛けた料理等により地域経済の活性化に貢献していることから、「零細・中小企業の繁栄」のPI増大を特定した。
- 地元食材の仕入に伴う輸送距離の短縮と温泉廃熱の活用によるCO₂排出量の削減、省エネの取り組みから「気候の安定性」のNI低減を特定した。
- ペーパーレスの推進から「資源強度」のNI低減を特定した。
- 野菜の端材利用によるフードロス削減への取り組みから「廃棄物」のNI低減を特定した。

なお、インパクトマッピングで抽出された以下のPI及びNIは、当社の事業により与える影響は限定的のため特定していない。

- 短期宿泊業（業種コード：5510）
「社会的保護」「水域」「土壌」「生物種」「生息地」のNI
- 専門店による食料品小売業（業種コード：4721）
「食糧」「文化と伝統」のPIおよび「社会的保護」のNI
- レストラン及び移動式飲食業（業種コード：5610）
「食糧」「文化と伝統」のPIおよび「児童労働」「社会的保護」のNI
- 食料品、飲料またはたばこが主な非専門店小売業（業種コード：4711）
「食糧」のPIおよび「食糧」「社会的保護」のNI
- 他に分類されないその他の娯楽・レクリエーション活動（業種コード：9329）
「健康および安全性」のPIおよび「社会的保護」「廃棄物」のNI

B. 川上の事業

川上の事業におけるインパクトについては、当社の事業が与える影響が僅少であり、特定していない。

<当社の事業が与えるインパクトのマッピング(UNEP FI インパクトレーダー)>

下図によりマッピング内容を可視化した。インパクトカテゴリのうち、黄色塗りされた箇所はバリューチェーン分析により特定されたカテゴリである。また、各事業において想定されるPI及びNIをインパクトレーダーから抽出している。

バリューチェーン			当社の事業										
業種 (国際標準産業分類)			短期宿泊業		専門店による食料品小売業		レストラン及び移動式飲食業		食料品、飲料またはたばこが主な非専門店小売業		他に分類されないその他の娯楽・レクリエーション活動		
【コード】			5510		4721		5610		4711		9329		
三側面	インパクトエリア	インパクトトピック	PI	NI	PI	NI	PI	NI	PI	NI	PI	NI	
社会	人格と人の安全保障	紛争											
		現代奴隷											
		児童労働						●					
		データプライバシー											
		自然災害											
	健康および安全性	-	●	●		●		●		●	●		●
		水										●	●
	資源とサービスの入手可能性、アクセス可能性、手頃さ、品質	食糧			●		●		●		●		
		エネルギー										●	
		住居											
		健康と衛生											
		教育											
		移動手段											
		情報											
		コネクティビティ											
		文化と伝統	●		●●		●●						
		ファイナンス											
	生計	雇用	●		●		●		●		●		●
		賃金	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		社会的保護		●		●		●		●		●	●
平等と正義	ジェンダー平等												
	民族・人種平等												
	年齢差別												
	その他の社会的弱者												
社会経済	強固な制度、平和、安定	法の支配											
	市民的自由												
	健全な経済	セクターの多様性	●		●●				●●				
自然環境	気候の安定性	気候変動											
		水質		●●									
	生物多様性と生態系	大気											
		土壌											
生物種													
サーキュラリティ	生息地												
	資源強度												
		廃棄物											

●●：主要なカテゴリ、●：関連のあるカテゴリ
■：PIの増大またはNIの低減に係る箇所

バリューチェーン			川上の事業											
業種 (国際標準産業分類) 【コード】			食料品、飲料及びたばこ 卸売業 4630		その他の予約サービス業及 び関連業務 7990		繊維及び毛皮製品洗濯・ (ドライ) クリーニング業 9601		建物一般清掃業 8121		梨果及び核果の栽培 0124		豚の飼育 0145	
三側面	インパクトエリア	インパクトトピック	PI	NI	PI	NI	PI	NI	PI	NI	PI	NI	PI	NI
社会	人格と人の 安全保障	紛争												
		現代奴隷										●●		●●
		児童労働										●●		●●
		データプライバシー												
	健康および安全性	自然災害										●●		●●
		-		●		●		●		●	●●	●●	●●	●●
	資源とサービスの 入手可能性、 アクセス可能性、 手頃さ、品質	水		●								●●		●●
		食糧		●								●●		●●
		エネルギー												
		住居												
		健康と衛生												
		教育												
		移動手段												
		情報												
		コネクティビティ												
		文化と伝統				●	●●			●				
	生計	ファイナンス												
		雇用		●		●		●		●		●●		●●
		賃金		●		●		●		●		●		●
		社会的保護			●		●		●		●	●●		●●
ジェンダー平等											●●		●●	
平等と正義	民族・人種平等										●●		●●	
	年齢差別										●●		●●	
	その他の社会的弱者										●●		●●	
	その他の社会的弱者										●●		●●	
社会経済	強固な制度、 平和、安定	法の支配												
	市民的自由													
	健全な経済	セクターの多様性												
インフラ	経済収束	楽観・中小企業の繁栄	●										●	
	経済収束									●				
自然環境	気候の安定性	水域		●		●						●●		●●
		大気		●		●						●●		●●
	生物多様性と 生態系	土壌										●●		●●
		生物種										●●		●●
		生態地		●		●						●●		●●
	サーキュラリティ	資源強度										●●		●●
		廃棄物		●		●		●		●		●●		●●

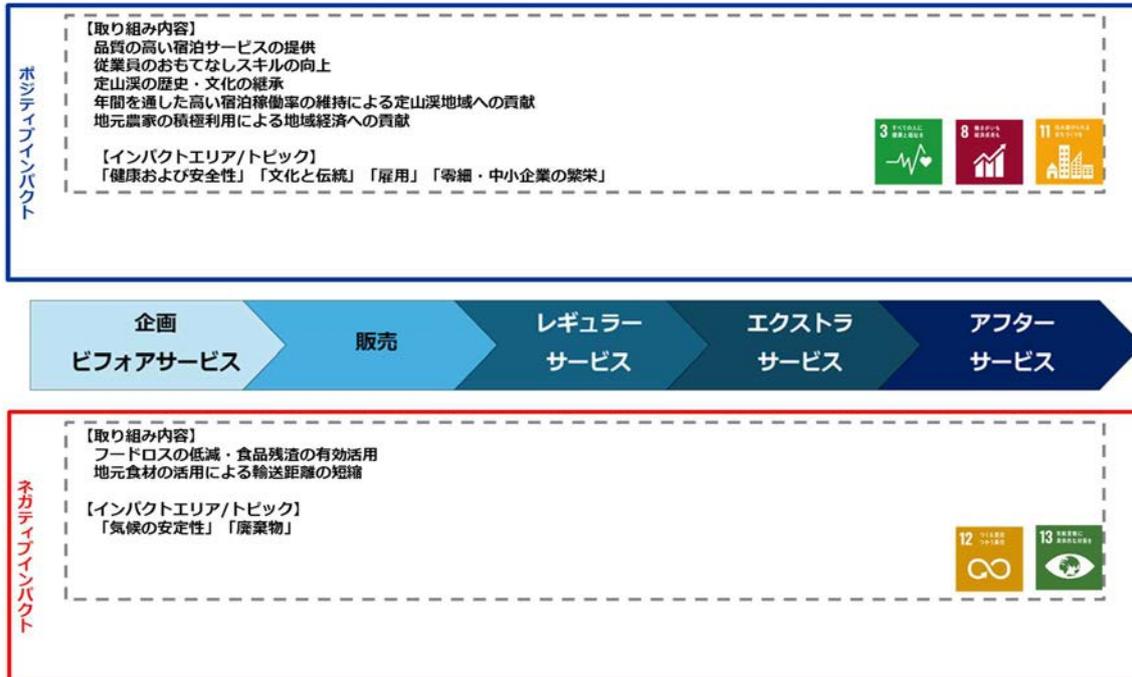
●●：主要なカテゴリ、●：関連のあるカテゴリ
■：PIの増大またはNIの低減に係る箇所

(3) インパクトニーズの確認

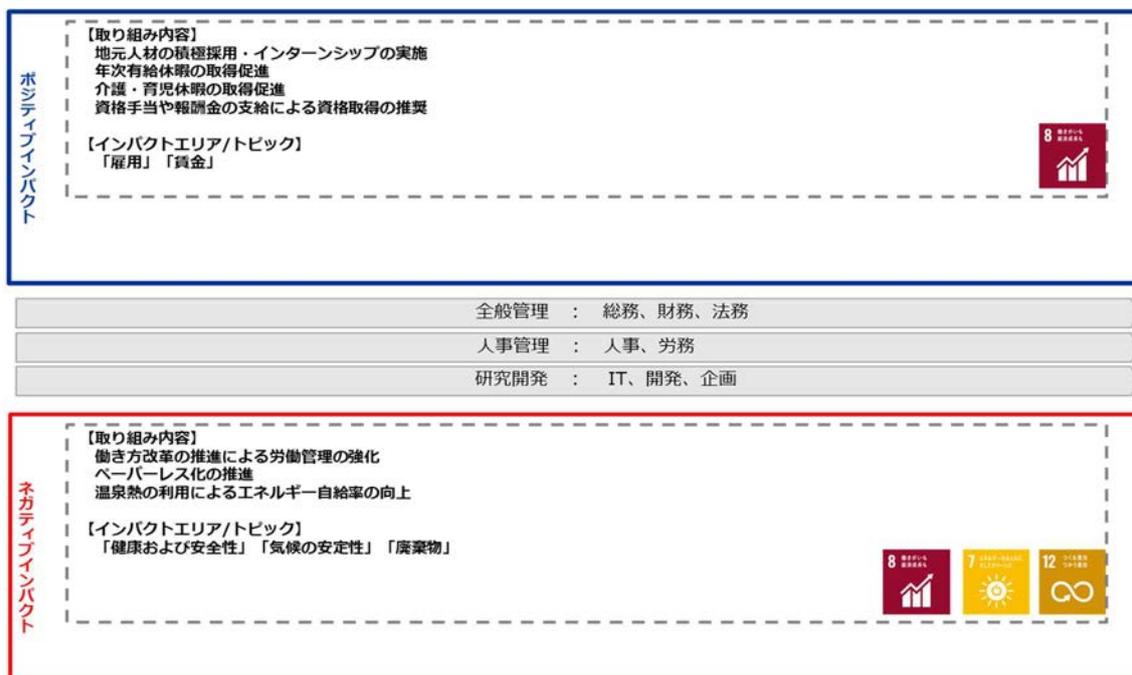
A. インパクトカテゴリと SDGs(およびサステナビリティ方針)の関連性

下図によりインパクトカテゴリと SDGs の関連性を以下の通り可視化した。バリューチェーン分析(サプライチェーン及び管理部門)とインパクトリーダーによるマッピングを通じ、取り組み内容を網羅的に整理している。

(a) サプライチェーンでのマッピング



(b) 管理部門でのマッピング



(c) 経営方針における重要課題

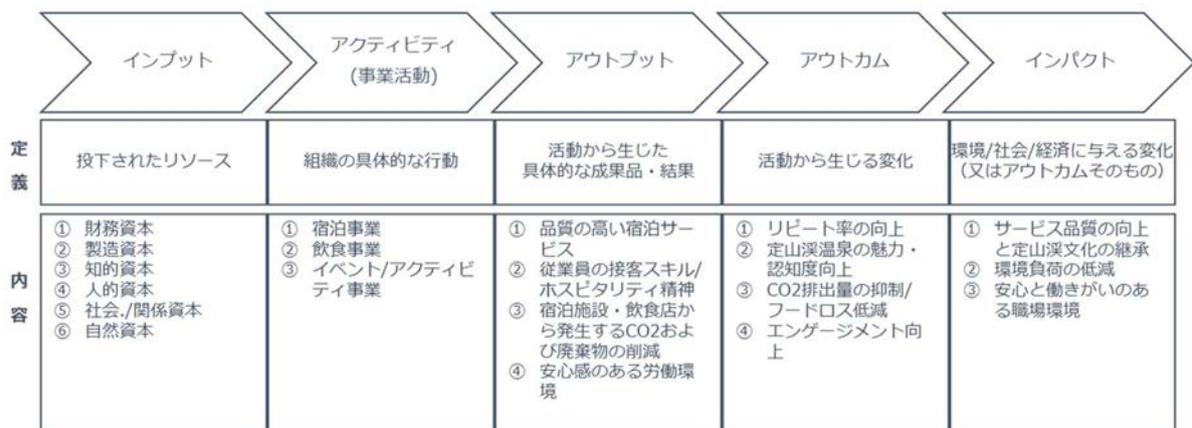
- I. お客様の喜びと満足に裏付けられた『ぬくもり温泉リゾート』の提供
- II. 皆が幸せになる為に資源を大切に使う
- III. 地域と連携し社会に元気を提供する
- IV. 安心と働きがいのある職場環境づくり
- V. 地域や社会から信頼されるふる川を目指す

(d) めくもりの宿ふる川のインパクト

以下ロジックモデルを基に、めくもりの宿ふる川のインパクトを整理する。六つの資本(①財務、②製造、③知的、④人的、⑤社会・関係、⑥自然)の投下により事業を行い、アウトプットとして①品質の高い宿泊サービス ②従業員の接客スキル/ホスピタリティ精神 ③宿泊施設・飲食店から発生するCO₂および廃棄物の削減 ④安心感のある労働環境等が創造され、アウトカムとして①リピート率の向上②定山溪温泉の魅力・認知度向上③CO₂排出量の抑制/フードロス低減 ④エンゲージメント向上が生じ、インパクトとして①サービス品質の向上と定山溪文化の継承 ②環境負荷の低減 ③安心と働きがいのある職場環境がもたらされる。ここで言及するインパクトとは、環境/社会/経済に与える変化もしくはアウトカムそのものと定義する。なお、特定されたインパクトは重要課題と整合している。

また、インパクトのうち、事業別の売上構成、ビジネスモデル及びインパクトレーダーによるマッピング結果から、より重要なものとしてコア・インパクトを特定する。

<ロジックモデルによる整理>



・インプットの内容(六つの資本)の概要

- ① 財務資本：安定したキャッシュフロー創出による経営資源への分配
- ② 製造資本：温泉設備・管理設備、旅館、飲食設備・機器
- ③ 知的資本：接客・おもてなしスキル、施設運営のノウハウ、定山溪文化/歴史
- ④ 人的資本：ホスピタリティに優れた人材、接客・調理のプロフェッショナル人材
- ⑤ 社会/関係資本：地域農家、観光事業者、地域の交通機関、ビジネスパートナーとの連携
- ⑥ 自然資本：良質な温泉源・リラクゼーションに最適な自然環境

<インパクトの整理>

- サービス品質の向上と定山溪文化の継承：コア・インパクト

ぬくもりの宿ふる川は、訪れる人々に、定山溪の魅力を伝え、心あたたかいもてなしを尽くすことで、地域の活性化に貢献している。観光地の持続的な発展には、文化・自然・食などの多岐にわたる分野での高付加価値なサービスの提供が必要であり、そのサービスを企画・提供する人材の育成が重要となる。

定山溪の造詣を深めたホスピタリティの向上は、高付加価値なサービスを提供する源泉となり、当社ならびに地域の魅力発信と誘客促進に寄与することからコア・インパクトに特定する。
- 環境負荷の低減

ぬくもりの宿ふる川では、近郊の食材を積極的に利用しており、輸送距離を短縮することでCO₂排出量の削減に取り組んでいる。また、LINEを活用したDM発信や予約内容のディスプレイ管理によるペーパーレス化、温泉熱を利用した床暖房とパネルヒーターの導入に取り組んでいる。今後は、再生エネルギーの活用とエネルギー使用ルールの策定による省エネ推進、アメニティの脱プラスチック化の環境負荷低減を図る方針にあることから、インパクトとして特定する。
- 安心と働きがいのある職場環境

ぬくもりの宿ふる川は、休暇取得の促進、社員寮の完備などの福利厚生の充実、各種研修の実施により、働きやすい環境の整備に取り組んでいる。今後は「くるみん認定」取得によるワークライフバランスの充実、従業員の能力や成果に応じた人事制度・給与制度へのブラッシュアップによる待遇改善を進め、働きがいの創出に努める方針にあることから、インパクトとして特定する。

B. 日本におけるインパクトニーズ

下図は、「SDGs インデックス&ダッシュボード 2024」を参照したものであり、SDGs の 17 の目標別に日本の達成度を表している。「緑は目標達成」、「黄は課題が残っている」、「橙は重要な課題が残っている」、「赤は主要な課題が残っている」としている。

ぬくもりの宿ふる川のインパクトに対する SDGs のゴールは「3,7,8,11,12」であり、日本のインパクトニーズに概ね整合していると判断できる。とりわけ「12」は主要な課題が残っているもの、「7,8,11」は重要な課題が残っているもの、「3」は課題が残っているものであり、特定されたインパクトは有意義である。

Japan

OECD member



BACK OVERVIEW INDICATORS FACT SHEET POLICY EFFORTS



SDG Dashboards and Trends

Click on a goal to view more information.



Dashboards: ● SDG achieved ● Challenges remain ● Significant challenges remain ● Major challenges remain ● Information unavailable

Trends: ↑ On track or maintaining SDG achievement ↗ Moderately improving → Stagnating ↓ Decreasing ↔ Trend information unavailable

○ : ぬくもりの宿ふる川のインパクトに関連するゴール

【出展：SDSN より】

C. 北海道におけるインパクトニーズ

ぬくもりの宿ふる川の主な事業エリアである北海道は、「北海道 SDGs 未来都市計画」を策定しており、SDGs のゴールとそれに紐づく KPI を設定している。

(経済)

～北海道の価値と強みを活かした持続可能な経済成長～

ゴール、ターゲット番号	KPI
2, 3	指標: 農業産出額 現在(2018年): 12,593億円 2030年: 13,600億円
	指標: 漁業生産額(漁業就業者1人当たり) 現在(2018年): 1,122万円 2025年: 1,072万円
	指標: 産産木材の利用量 現在(2018年度): 463万㎡ 2025年度: 483万㎡
	14, 4
14, 4	指標: 漁業生産量 現在(2018年): 108万トン 2030年: 145万トン
15, 1	指標: 森林面積(育成単層林・育成複層林・天然生林) 現在(2020年度): 5,536千ha 2030年度: 5,536千ha
8, 9 12, b	指標: 観光消費額(道内客、道外客、外国人それぞれ1人当たり) 現在(2019年度): (道内客) 13,432円 (道外客) 70,773円 (外国人) 138,778円 2025年度: (道内客) 15,000円※1 (道外客) 79,000円※1 (外国人) - 円※2
9, 1	指標: 道内空港の国際線利用者数 現在(2019年度): 350万人 2025年度: 380万人(目標)

(社会)

～あらゆる人々が将来の安全・安心を実感できる社会の形成～

ゴール、ターゲット番号	KPI
1, 3 1, 4	指標: 北海道福祉人材センターの支援による介護職の就業人数 現在(2019年度): 245人 2025年度: 230人 ※2019年度は目標を達成しているが、安定的に目標を達成できている状況ではないため、引き続き、230人を目標とする。
3, 8	指標: 全道の医療施設に従事する医師数(人口10万人当たり) 現在(2018年): 243.1人 (全国平均値246.7人) 2025年: 全国平均値
8, 8	指標: 年間総労働時間(フルタイム労働者) 現在(2019年): 1,966時間 2025年: 1,922時間
8, 5 8, 6	指標: 就業率 現在(2019年): 56.7% (全国平均値60.6%) 2025年: 各年において前年よりも上昇
8, 5	指標: 女性(25～34歳)の就業率 現在(2019年): 77.0% (全国平均値78.6%) 2025年: 全国平均値以上
8, 5	指標: 高齢者(65歳以上)の就業率 現在(2019年): 21.8% (全国平均値24.9%) 2024年: 全国平均値以上
8, 5	指標: 障がい者の実雇用率 現在(2019年): 2.27% 2025年: 法定雇用率以上
11, b 13, 1	指標: 自主防災組織活動力パーセント 現在(2019年度): 60.5% (全国平均値84.1%) 2024年度: 全国平均値以上
13, 1	指標: 避難情報の具体的な発令基準の策定状況 現在(2019年度): (水害)83.9% (土砂災害)89.2% (高潮災害)100% (津波災害)97.4% 2024年度: 100%
13, 1	指標: 洪水ハザードマップを作成した市町村の割合 現在(2019年度): 60.6% 2024年度: 100%

～II 未来を担う人づくり～

ゴール、ターゲット番号	KPI
4, 6	指標: 平均正答率の状況(全国学力・学習状況調査における平均正答率の全国平均値を100とした場合の北海道の各教科の数値) 現在(2019年度): (小学国語)98.4 (小学算数)96.8 ※小学校6年生 (中学国語)99.0 (中学算数)97.2 ※中学校3年生 2024年度: 全ての管内で全国平均値以上(100以上)
4, 6	指標: 児童生徒の体力・運動能力の状況(全国平均値を50とした場合の数値) 現在(2019年度): (小学男子)49.1 (小学女子)48.7 ※小学校5年生 (中学男子)48.6 (中学女子)46.7 ※中学校2年生 2024年度: 全国平均値以上(50以上)

～III 持続可能で個性あふれる地域づくり～

ゴール、ターゲット番号	KPI
11, 3	指標: 国や道の広域連携制度に取り組む地域数 現在(2018年度): 25地域 2025年度: 25地域
11, 4	指標: 「アイヌ民族が先住民族であること」の認知度 現在(2018年度): 88.0% 2024年度: 98.0%
8, 9	指標: 観光消費額(道内客、道外客、外国人それぞれ1人当たり) 現在(2019年度): (道内客) 13,432円 (道外客) 70,773円 (外国人) 138,778円 2025年度: (道内客) 15,000円※1 (道外客) 79,000円※1 (外国人) - 円※2
8, 9	指標: 道外からの観光入込客数(うち外国人) 現在(2019年度): 836万人(244万人) 2025年度: 一万人(一万人)※2

(環境)

～環境・エネルギー先進地「北海道」の実現～

ゴール、ターゲット番号	KPI
6, 3	指標: 環境基準達成率(水質汚濁) 現在(2018年度): 91.2% 2030年度: 100%
11, 6	指標: 環境基準達成率(大気汚染) 現在(2018年度): 100% 2030年度: 100%
7, 2	指標: 新エネルギー導入量 現在(2018年度): (発電分野(設備容量)) 320万kW (発電分野(発電電力量)) 8,611百万kWh (熱利用分野(熱量)) 14,713TJ 2030年度: (発電分野(設備容量)) 824万kW (発電分野(発電電力量)) 20,455百万kWh (熱利用分野(熱量)) 20,960TJ
13, 3	指標: 温室効果ガス排出量 現在(2016年度): 5,936万t-CO ₂ 2030年度: 3,788万t-CO ₂
14, 2	指標: 漁業生産量 現在(2018年): 108万トン 2030年: 145万トン
15, 1	指標: 森林面積(育成単層林・育成複層林・天然生林) 現在(2020年度): 5,536千ha 2030年度: 5,536千ha

【出典：北海道「北海道 SDGs 未来都市計画(2021～2024)」】

北海道 SDGs 未来都市計画において、「2030 年のあるべき姿」の実現に向けた、特に優先的に取り組むべき課題が共有されている。加えて北海道総合政策部計画局推進課による「北海道 SDGs 推進ビジョン」においても北海道の課題が整理されている。今回特定したインパクトに対する SDGs のゴールは、これらとも概ね整合しており、北海道においても重要度が高いものと判断できる。

【2030 年のあるべき姿】

「世界の中で輝きつづける北海道」

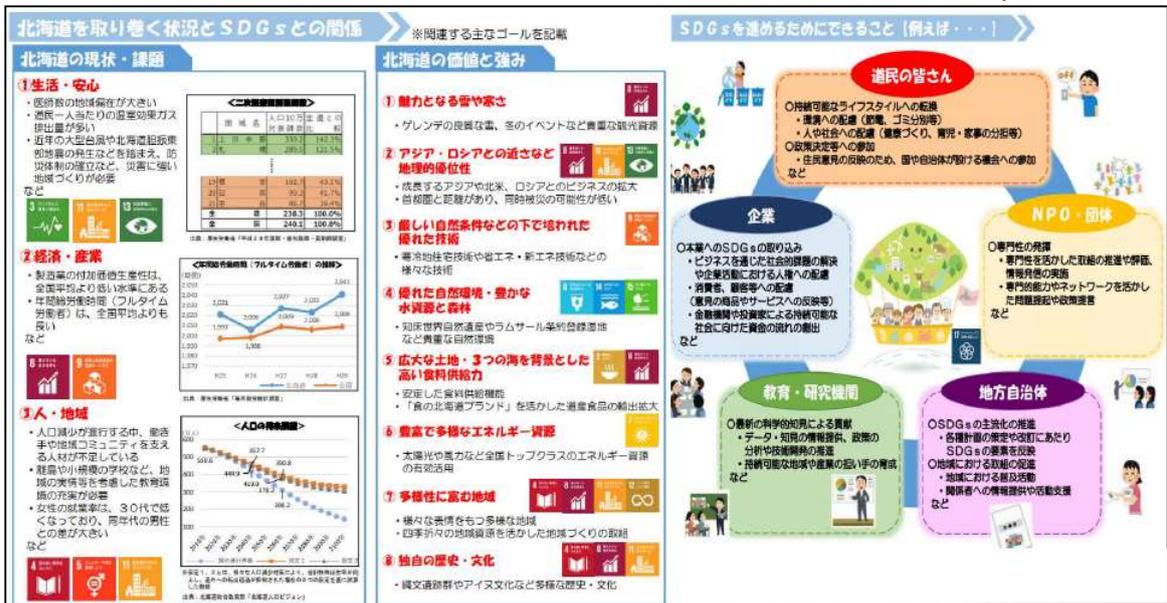
～ 世界に誇れる北海道の魅力を磨き、育て、様々な強みを活かし、SDGsの推進に積極的に取り組むことによって、「世界の中の北海道」としての存在感を高めながら、誰一人取り残さない、将来にわたって安心して心豊かに住み続けることができる地域社会を形成していく ～

＜北海道の優先課題＞

「2030 年のあるべき姿」の実現に向け、企業や団体、自治体など様々な主体が本道の課題や強みなどの実情に即して、特に優先的に取り組むべき課題を共有することが必要であるため、本計画においては、SDGsのゴール、ターゲットや国のSDGs実施指針などを踏まえ、道として以下の「優先課題」を提示する。

- 1 あらゆる人々が将来の安全・安心を実感できる社会の形成
- 2 環境・エネルギー先進地「北海道」の実現
- 3 北海道の価値と強みを活かした持続可能な経済成長
- 4 未来を担う人づくり
- 5 持続可能で個性あふれる地域づくり

【出典：北海道「北海道 SDGs 未来都市計画(2021～2024)」】



【出典：北海道総合政策部計画局推進課「北海道 SDGs 推進ビジョン」】

(4) 北洋銀行グループが認識する社会課題との整合性

北洋銀行グループは、「お客さま本位を徹底し、多様な課題の解決に取り組み、北海道の明日をきりひらく」という経営理念と行動規範に基づく企業活動を通じて、全てのステークホルダーと地域社会・環境の持続的発展に貢献するとともに、当行グループの中長期的な企業価値の向上と持続的経営の実現に努めることをサステナビリティ方針として掲げている。

本評価書で特定しためくもりの宿ふる川のインパクトは、北洋銀行のサステナビリティ方針と全体的に整合的である。とりわけ、ESG 取り組み方針の「1. 環境方針」「2. 社会貢献方針」、SDGs に係る重点テーマの「1. お客さまとの共通価値の創造」「2. 環境保全」「5. ダイバーシティ」及び環境・社会に配慮した投融資方針の「1. 環境・社会にポジティブな影響を与えると考えられる事業に対する取り組み方針」に整合している。



サステナビリティ方針

<p style="text-align: center;">ESG取組方針</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 環境方針 2. 社会貢献方針 3. ガバナンス方針 	<p style="text-align: center;">SDGsに係る重点取組テーマ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. お客さまとの共通価値の創造 2. 環境保全 3. 医療福祉 4. 教育文化 5. ダイバーシティ
<p style="text-align: center;">環境・社会に配慮した投融資方針</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 環境・社会にポジティブな影響を与えると考えられる事業に対する取組方針 以下に例示する事業等に対しては、北海道経済の成長・発展に結びつくよう積極的に投融資してまいります。 <ul style="list-style-type: none"> ・環境保全や気候変動対応など環境課題の解決に資する事業 ・地域経済の持続的発展に資する事業（起業・創業・イノベーション創出・事業承継等） ・医療・福祉・教育・ダイバーシティの充実 2. 環境・社会にネガティブな影響を与えると考えられる事業等に対する取組方針 以下に例示するような環境・社会に負の影響がある特定の事業等への投融資については慎重に判断します。ただし、脱炭素社会実現に向けた移行期間（トランジション期間）の対応等については、積極的に投融資してまいります。 <ul style="list-style-type: none"> ・石炭火力発電・石炭探掘事業 ・森林伐採事業・パーム油農園開発事業 ・非人道兵器製造 ・人権侵害・強制労働等 	<p style="text-align: center;">北洋銀行グループ人権方針</p> <p>北洋銀行グループ人権方針は、「サステナビリティ方針」を踏まえ、企業活動を通じて人権の尊重に取組んでいくことをお約束するものです。</p> <p>※以下の項目を設定</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.国際規範の尊重 2.適用範囲 3.人権尊重に対するコミットメント 4.救済措置 5.啓発活動・教育 6.管理体制

【出典：北洋銀行 提供】

3. インパクトの評価

特定されたインパクトに対し、インパクトの種類(PI(ポジティブインパクト)の創出可能性、NI(ネガティブインパクト)の低減・管理)、インパクトカテゴリ、関連する SDGs、内容・対応方針及び目標と KPI を整理する。

① サービス品質の向上と定山溪文化の継承：コア・インパクト

インパクトの種類	社会面において PI を増大
インパクトエリア (インパクトトピック)	PI：健康および安全性、資源サービスの入手可能性、アクセス可能性、手頃さ、品質（文化と伝統）、
関連する SDGs	 
取り組み内容	① 心あたたかいおもてなし、多言語対応力強化による顧客満足度の向上 ② スタッフの地域理解向上による定山溪温泉文化の継承
目標・KPI	① (a)2030 年度までに顧客リピーター率を 40%とする (2023 年度実績：約 25%) (b)2030 年度までに「おもてなし検定 2 級」のスタッフを 30 名以上とする (2023 年度実績：10 名) (c)2030 年度までに多言語対応可能スタッフを 5 名以上とする (2023 年度実績：0 名) ② 2026 年度までに全スタッフが定山溪検定 (※) を受験し、2028 年度までに定山溪検定の合格者を全スタッフの 90%以上とする (2023 年度実績：約 60%) ※定山溪観光協会が主催する定山溪に関する知識の検定

② 事業を通じた環境保全と資源保護

インパクトの種類	環境面において NI を低減
インパクトエリア (インパクトトピック)	NI：気候の安定性、サーキュラリティ（資源強度、廃棄物）
関連する SDGs	
取り組み内容	① ホテルアメニティの脱プラスチックによる廃プラスチックの削減 ② 施設内での再生エネルギーの活用、省エネに向けた取り組みの推進
目標・KPI	① 2030 年度までにお客様用アメニティを完全脱プラスチックとする ② (a) 2030 年度までに融雪などへの排湯熱の二次利用を開始する (b) 2030 年度までに省エネに向けた取り組み ¹ を 10 件実施する

③ 安心と働きがいのある職場環境づくり

インパクトの種類	社会面において PI を増大 社会面において NI を低減
インパクトエリア (インパクトトピック)	PI：生計（賃金、雇用）
関連する SDGs	
取り組み内容	① 働き方改革、育児支援強化によるワークライフバランスの推進 ② 人事・給与制度の刷新、賃上げによる従業員エンゲージメントの向上
目標・KPI	① (a)2027 年度までに年次有給休暇取得率を 70%とする (2023 年度実績：約 60%) (2028 年度以降の目標は改めて設定する) (b)2027 年度までに子育てサポート企業「くるみん認定」を取得する (2028 年度以降のワークライフバランスの推進に係る目標は改めて設定する) ② (a)2026 年度までに従業員の能力や成果に応じた人事制度・給与制度へブラッシュアップし運用を開始する (b)2030 年度までに入社 3 年以内離職率（アルバイト含む）を 20%とする（2023 年度実績：約 30%） (c)2030 年度までに従業員の平均年収を 2024 年度対比で 1.3 倍とする

¹ 例：各部署でのエネルギー使用ルールの策定、施設内の完全 LED 化、省エネボイラーへの更新、空調設備の個別化等

4. インパクトのモニタリング

ぬくもりの宿ふる川は、代表取締役を最高責任者として主要事業の棚卸を行い、インパクトの特定、取り組み内容・対応方針や目標・KPI を設定した。

本件で設定した目標・KPI の進捗状況については、ぬくもりの宿ふる川と北洋銀行及び株式会社北海道共創パートナーズが少なくとも年に 1 回は定期的に情報共有を行い、北洋銀行がその達成状況や課題をモニタリングするとともに、必要に応じて課題解決に向けた提案を行う。

5. 情報開示

モニタリング関連の情報開示は、北洋銀行および株式会社北海道共創パートナーズが定める「コミュニケーションサポートシート」もしくはその内容に準拠するものを活用し、北洋銀行または株式会社北海道共創パートナーズのホームページにて行うこととする。

留意事項

1. 本評価書の内容は、北洋銀行ならびに株式会社北海道共創パートナーズが現時点で入手可能な公開情報に加え、ぬくもりの宿ふる川から提供された情報や当社への事業に関するヒアリングを通じて収集した情報に基づいて、現時点での状況を評価したものであり、将来における実現可能性、ポジティブ要素の成果及びネガティブ要素の抑制等を保証するものではありません。
2. 本評価を作成するために活用した情報は、北洋銀行ならびに株式会社北海道共創パートナーズがその裁量により信頼できると判断したものであるものの、これらの情報の正確性等について独自に検証しているわけではありません。北洋銀行ならびに株式会社北海道共創パートナーズは、これらの情報の正確性、適時性、網羅性、完全性及び特定目的への適合性その他一切の事項について、明示・黙示を問わず、何ら表明または保証するものではありません。
3. 本評価書に関する一切の権利は北洋銀行ならびに株式会社北海道共創パートナーズに帰属します。評価書の全部または一部を自己使用の目的を超えての使用（複製、改変、翻案等を含む）は禁止されています。



セカンドオピニオン

北洋銀行 ポジティブインパクトファイナンス

2025年3月31日

株式会社ぬくもりの宿ふる川

サステナブルファイナンス本部

担当アナリスト：左近充 直人

格付投資情報センター(R&I)は北洋銀行がぬくもりの宿ふる川に対して実施するポジティブインパクトファイナンスについて国連環境計画・金融イニシアティブ(UNEP FI)が制定したポジティブインパクト金融原則(PIF 原則)に適合していることを確認した。

R&Iは別途、北洋銀行のポジティブインパクトファイナンス実施体制がPIF原則に適合していることを確認している¹。今回のファイナンスに関して北洋銀行および北海道共創パートナーズの調査資料の閲覧と担当者への質問を実施し、実施体制の業務プロセスがPIF原則に準拠して適用されていることを確認した。

北洋銀行が実施するインパクトファイナンスの概要は以下のとおり。

(1) 対象先

社名	株式会社ぬくもりの宿ふる川
所在地	北海道札幌市
設立	1969年8月
資本金	43百万円
事業内容	①温泉旅館「定山溪温泉 ぬくもりの宿ふる川」の運営 ②自家製アップルパイ専門店「J・glacee(ジェイ・グラッセ)」の運営 ③「心の里 埜のてらす」の運営
売上高	1,115百万円(2024年4月期)
社員数	95名(2024年4月現在)

(2) インパクトの特定

北洋銀行および北海道共創パートナーズは対象先の事業内容や活動地域等についてヒアリングを行い、バリューチェーンの各段階において発現するインパクトを分析し、特定したインパクトカテゴリをSDGsに対応させてインパクトニーズを確認した。また、当社の事業活動が影響を与える地域におけるインパクトニーズとの整合性について、持続可能な開発ソリューションネットワーク(SDSN)が提供するSDGダッシュボードなどを参照し確認した。

(3) インパクトの評価

北洋銀行および北海道共創パートナーズは特定したインパクトの実現を測定できるようインパクトの内容を整理してKPIを設定した。ポジティブインパクトはSDGs達成に寄与する取り組みとして追加性があると判断した。また、北洋銀行が掲げる重点課題(マテリアリティ)と方向性が一致することを確認した。

¹2022年9月28日付セカンドオピニオン「北洋銀行 ポジティブインパクトファイナンス実施体制」
https://www.r-i.co.jp/news_release_suf/2022/09/news_release_suf_20220928_jpn_3.pdf

① サービス品質の向上と定山溪文化の継承

インパクトの種類	社会的側面においてポジティブインパクトを増大
インパクトエリア	「健康および安全性」、「資源サービスの入手可能性、アクセス可能性、手頃さ、品質（文化と伝統）」
関連する SDGs	 
内容・対応方針	① 心あたかいおもてなし、多言語対応力強化による顧客満足の上 ② スタッフの地域理解向上による定山溪温泉文化の継承
目標と KPI	① (a) 2030 年度までに顧客リピーター率を 40%とする (2023 年度実績: 約 25%) (b) 2030 年度までに「おもてなし検定 2 級」のスタッフを 30 名以上とする (2023 年度実績: 10 名) (c) 2030 年度までに多言語対応可能スタッフを 5 名以上とする (2023 年度実績: 0 名) ② 2026 年度までに全スタッフが定山溪検定(※)を受験し、2028 年度までに定山溪検定の合格者を全スタッフの 90%以上とする (2023 年度実績: 約 60%) ※定山溪観光協会が主催する定山溪に関する知識の検定

② 事業を通じた環境保全と資源保護

インパクトの種類	環境的側面においてネガティブインパクトを低減
インパクトエリア	「気候の安定性」、「サーキュラリティ(資源強度、廃棄物)」
関連する SDGs	 
内容・対応方針	① ホテルアメニティの脱プラスチックによる廃プラスチックの削減 ② 施設内での再生エネルギーの活用、省エネに向けた取り組みの推進
目標と KPI	① 2030 年度までにお客様用アメニティを完全脱プラスチックとする ② (a) 2030 年度までに融雪などへの排湯熱の二次利用を開始する (b) 2030 年度までに省エネに向けた取り組み(※)を 10 件実施する ※各部署でのエネルギー使用ルールの策定、施設内の完全 LED 化、省エネボイラーへの更新、空調設備の個別化等

③ 安心と働きがいのある職場環境づくり

インパクトの種類	社会的側面においてポジティブインパクトを増大 社会的側面においてネガティブインパクトを低減
インパクトエリア	「生計(賃金、雇用)」
関連する SDGs	
内容・対応方針	① 働き方改革、育児支援強化によるワークライフバランスの推進 ② 人事・給与制度の刷新、賃上げによる従業員エンゲージメントの向上
目標と KPI	① (a) 2027 年度までに年次有給休暇取得率を 70%とする (2023 年度実績: 約 60%)(2028 年度以降の目標は改めて設定する) (b) 2027 年度までに子育てサポート企業「くるみん認定」を取得する (2028 年度以降のワークライフバランスの推進に係る目標は改めて設定する) ② (a) 2026 年度までに従業員の能力や成果に応じた人事制度・給与制度へブラッシュアップし運用を開始する (b) 2030 年度までに入社 3 年以内離職率(アルバイト含む)を 20%とする (2023 年度実績: 約 30%) (c) 2030 年度までに従業員の平均年収を 2024 年度対比で 1.3 倍とする

(4) モニタリング

北洋銀行は対象先の担当者との会合を少なくとも年に 1 回実施し、本 PIF で設定した KPI の進捗状況について共有する。日々の営業活動を通じた情報交換も行い対象先のインパクト実現に向けた支援を実施する。

以上

【留意事項】

本資料に関する一切の権利・利益（著作権その他の知的財産権及びノウハウを含みます）は、特段の記載がない限り、R&Iに帰属します。R&Iの事前の書面による承諾無く、本資料の全部又は一部を使用（複製、改変、送信、頒布、譲渡、貸与、翻訳及び翻案等を含みます）することは認められません。

R&Iは、本資料及び本資料の作成に際して利用した情報について、その正確性、適時性、網羅性、完全性、商品性、及び特定目的への適合性その他一切の事項について、明示・黙示を問わず、何ら表明又は保証をするものではありません。

また、本資料に記載された情報の誤り、脱漏、不適切性若しくは不十分性、又はこれらの情報の使用に関連して発生する全ての損害、損失又は費用について、債務不履行、不法行為又は不当利得その他請求原因の如何やR&Iの帰責性を問わず、いかなる者に対しても何ら義務又は責任を負いません。

セカンドオピニオンは、信用格付業ではなく、金融商品取引業等に関する内閣府令第299条第1項第28号に規定される関連業務（信用格付業以外の業務であって、信用格付行為に関連する業務）です。当該業務に関しては、信用格付行為に不当な影響を及ぼさないための措置と、信用格付と誤認されることを防止するための措置が法令上要請されています。

セカンドオピニオンは、企業等が環境保全及び社会貢献等を目的とする資金調達のために策定するフレームワークについての公的機関又は民間団体等が策定する当該資金調達に関する原則等との評価時点における適合性に対するR&Iの意見です。R&Iはセカンドオピニオンによって、適合性以外の事柄（債券発行がフレームワークに従っていること、資金調達の目的となるプロジェクトの実施状況等を含みます）について、何ら意見を表明するものではありません。また、セカンドオピニオンは資金調達の目的となるプロジェクトを実施することによる成果等を証明するものではなく、成果等について責任を負うものではありません。セカンドオピニオンは、いかなる意味においても、現在・過去・将来の事実の表明ではなく、またそのように解されてはならないものであるとともに、投資判断や財務に関する助言を構成するものでも、特定の証券の取得、売却又は保有等を推奨するものでもありません。セカンドオピニオンは、特定の投資家のために投資の適切性について述べるものでもありません。R&Iはセカンドオピニオンを行うに際し、各投資家において、取得、売却又は保有等の対象となる各証券について自ら調査し、これを評価していただくことを前提としております。投資判断は、各投資家の自己責任の下に行われなければなりません。

R&Iがセカンドオピニオンを行うに際して用いた情報は、R&Iがその裁量により信頼できると判断したものであるものの、R&Iは、これらの情報の正確性等について独自に検証しているわけではありません。R&Iは、セカンドオピニオン及びこれらの情報の正確性、適時性、網羅性、完全性、商品性、及び特定目的への適合性その他一切の事項について、明示・黙示を問わず、何ら表明又は保証をするものではありません。

R&Iは、R&Iがセカンドオピニオンを行うに際して用いた情報、セカンドオピニオンの意見の誤り、脱漏、不適切性若しくは不十分性、又はこれらの情報やセカンドオピニオンの使用に起因又は関連して発生する全ての損害、損失又は費用（損害の性質如何を問わず、直接損害、間接損害、通常損害、特別損害、結果損害、補填損害、付随損害、逸失利益、非金銭的損害その他一切の損害を含むとともに、弁護士その他の専門家の費用を含むものとします）について、債務不履行、不法行為又は不当利得その他請求原因の如何やR&Iの帰責性を問わず、いかなる者に対しても何ら義務又は責任を負わないものとします。セカンドオピニオンに関する一切の権利・利益（著作権、著作権その他の知的財産権及びノウハウを含みます）は、R&Iに帰属します。R&Iの事前の書面による承諾無く、評価方法の全部又は一部を自己使用の目的を超えて使用（複製、改変、送信、頒布、譲渡、貸与、翻訳及び翻案等を含みます）し、又は使用する目的で保管することは禁止されています。

セカンドオピニオンは、原則として発行体から対価を受領して実施したものです。

R&IのR&Iグリーンボンドアセスメントは、グリーンボンドで調達された資金が、環境問題の解決に資する事業に投資される程度に対するR&Iの意見です。R&Iグリーンボンドアセスメントでは、グリーンボンドフレームワークに関してのセカンドオピニオンを付随的に提供する場合があります。対象事業の環境効果等を証明するものではなく、環境効果等について責任を負うものではありません。R&Iグリーンボンドアセスメントは、信用格付業ではなく、金融商品取引業等に関する内閣府令第299条第1項第28号に規定される関連業務（信用格付業以外の業務であって、信用格付行為に関連する業務）です。当該業務に関しては、信用格付行為に不当な影響を及ぼさないための措置と、信用格付と誤認されることを防止するための措置が法令上要請されています。

R&Iグリーンボンドアセスメントは、いかなる意味においても、現在・過去・将来の事実の表明ではなく、またそのように解されてはならないものであるとともに、投資判断や財務に関する助言を構成するものでも、特定の証券の取得、売却又は保有等を推奨するものでもありません。R&Iグリーンボンドアセスメントは、特定の投資家のために投資の適切性について述べるものでもありません。R&IはR&Iグリーンボンドアセスメントを行うに際し、各投資家において、取得、売却又は保有等の対象となる各証券について自ら調査し、これを評価していただくことを前提としております。投資判断は、各投資家の自己責任の下に行われなければなりません。

R&IがR&Iグリーンボンドアセスメントを行うに際して用いた情報は、R&Iがその裁量により信頼できると判断したものであるものの、R&Iは、これらの情報の正確性等について独自に検証しているわけではありません。R&Iは、これらの情報の正確性、適時性、網羅性、完全性、商品性、及び特定目的への適合性その他一切の事項について、明示・黙示を問わず、何ら表明又は保証をするものではありません。

R&Iは、資料・情報の不足や、その他の状況により、R&Iの判断でR&Iグリーンボンドアセスメントを保留したり、取り下げたりすることがあります。

R&Iは、R&IがR&Iグリーンボンドアセスメントを行うに際して用いた情報、R&IのR&Iグリーンボンドアセスメントその他の意見の誤り、脱漏、不適切性若しくは不十分性、又はこれらの情報やR&Iグリーンボンドアセスメントの使用、あるいはR&Iグリーンボンドアセスメントの変更・保留・取り下げ等に起因又は関連して発生する全ての損害、損失又は費用（損害の性質如何を問わず、直接損害、間接損害、通常損害、特別損害、結果損害、補填損害、付随損害、逸失利益、非金銭的損害その他一切の損害を含むとともに、弁護士その他の専門家の費用を含むものとします）について、債務不履行、不法行為又は不当利得その他請求原因の如何やR&Iの帰責性を問わず、いかなる者に対しても何ら義務又は責任を負わないものとします。

R&Iグリーンボンドアセスメントは、原則として申込者から対価を受領して実施したものです。

【専門性・第三者性】

R&Iは2016年にR&Iグリーンボンドアセスメント業務を開始して以来、多数の評価実績から得られた知見を蓄積しています。2017年からICMA（国際資本市場協会）に事務局を置くグリーンボンド原則／ソーシャルボンド原則にオブザーバーとして加入しています。2018年から環境省のグリーンボンド等の発行促進体制整備支援事業の発行支援者（外部レビュー部門）に登録しています。また、2022年から経済産業省の温暖化対策促進事業におけるトランジション・ファイナンスの指定外部評価機関に採択されています。

R&Iの評価方法、評価実績等についてはR&Iのウェブサイト（<https://www.r-i.co.jp/rating/esg/index.html>）に開示しています。

R&Iは2022年12月、金融庁が公表した「ESG評価・データ提供機関に係る行動規範」（以下、「行動規範」という。）の趣旨に賛同し、これを受け入れる旨を表明しました。行動規範の6つの原則とその実践のための指針へのR&Iの対応状況についてはR&Iのウェブサイト（<https://www.r-i.co.jp/rating/products/esg/index.html>）に開示しています（以下、「対応状況の開示」という。）。

R&Iと資金提供者及び資金調達者との間に利益相反が生じると考えられる資本関係及び人的関係はありません。

なお、R&IはESGファイナンスによる資金提供あるいは資金調達を行う金融機関との間で、金融機関の顧客にR&IのESGファイナンス評価を紹介する契約を締結することがありますが、R&Iは、独立性を確保する措置を講じています。詳細は対応状況の開示をご覧ください。